

2024. 2. 21

北九州市教職員組合にゅうす



## 権力者に都合のよい事を教えるのではなく、事実を教えて子どもたちに考えて欲しい！ ～第7回未来に伝える平和祭への参加ありがとうございました！～②

ドキュメント映画「教育と愛国」、参加者の感想のつづきです。

・戦争の事実を正しく伝えることが、政治や教育で湾曲されてしまう現実を改めて感じることができました。特に、教科書に記述される内容を差しさわりのない内容に書き改めるには、昔も今も全く変わらないと思います。日本は他国教育を批判する前に、正すことが必要だと思います。

教育と愛国

・史実であったものが「新しい歴史」に変えられ、教育が反日活動の匹頭にあげられることに、現場で働くものとして恐怖を感じました。インタビュー全体を通して、政府側の主張は形のない思想や民意として圧力ではないとされ、現場や教育研究に携わる人間には個人攻撃を受けるという構図がありありと伝わってきました。言葉が届かない相手にどう立ち向かうのか、どのように学問と教育を守っていけばよいのか、不安ばかりが大きくなっていますが、この事実をきちんと知り、屈することのない強さをもたなければと感じました。この映画を制作した方々に敬意を伝えたいです。

・知らなければならないことがたくさんあることが分かった。たくさん言葉を語っているが、本心を言わずごまかしている政治家や官僚、注意深くあればと思いました。「表現の自由」を守らねばなりません。

・東大の教授の中身の無い返答に(思考を感じられない一天皇の下で存在していればそれでいいといった?)そうなんだと思われました。ならば私達は皆であーだ、こーだと話し、目の前の子どもや保護者、仲間の姿から問題?課題を見つけて行動(授業)を考え実践していかなければと思いました。

・別の場にて、「主戦場」をみる機会があり、今回の「教育と愛国」も度々観ることを推奨されましたので、観る機会を提供していただき、ありがとうございました。仕事では、人文科学、歴史学の分野に関わっており、その中で現代史をどう教えるか、今回の反発がおこる理由はなぜか?を知る、学ぶ手がかりとしてとても役立ちました。

・改めて、教育の中立性の大切さを感じました。政治の介入を切り離して考えていかなければならないことを考えました。

・私たちの社会が子どもの未来が、危機的な状況にあるということを痛切に感じた。

・教科書出版社は、教科書検定に当たって、忖度をすることに縛りつけられ、そうしないと大手出版社でも倒産に陥ることがあり得ることを知り、驚かされました。その教科書検定は、政治家の思考に左右され、正しいことが正しくないことのように、薄められ、研究が自由であるべきなのに、自由ではない不自由さに気づかされました。



・戦時中、戦後の反省が、二度と戦争をしないという人々の思いが少しずつおさえつけられていく、なくされていく恐怖を感じました。歴史をしっかり学んで、二度と同じまちがいを起こさないようにしなければいけないと強く感じました。ありがとうございました。

NO.42につづく

わからないこと・困ったことがあったら… 何でも気軽にお問い合わせください！



///JTU 北九州市教職員組合 〒802-0072 小倉北区東篠崎3丁目4-1

E-mail:jtuhokyu@lime.ocn.ne.jp

北九州教育会館 TEL (093) 953-0381

